金井倶光君

吾は来たりぬ 悠遠き日にあこがれて

北たぐに

の詩の都ぞ

やはらかき緑の芝生

美る は 新らしき喜びに満つ 清明の森蔭深く訪ね来てせいめい もりかげふか たず き しき小川の畔

へなむ石狩の

雄大いなる先人が足跡 曠野に打建てし

星辰清きエルムの学園に甦へりたる 光栄あれ伝統の法燈 四十三回記念祭巡りてょそみたびまつりめぐ

鐘の音は高く鳴るなりかねねねれたかなり

雪解なる陵にのぼりてゆきげ 夢にけむれ 培はん尊き遺訓 二春を魂の故郷に契りては 花香る青史の光栄よ 恋ひ慕ふ意気と血汐の あかつきは紫 'n

久遠の山河 森蔭に心情は燃えてもりかげてこころも 悠久の時の移ろひゆうきゅう 仰ぎ見よ秀でたる

進まなむ厳しかる道 青春の高遠き理想を抱きては

恵むなり真理の秘奥